

## 極早生ウンシュウ「YN26」の日焼け果発生状況と対策

果樹試験場 主任研究員 中谷 章

### 【要約】

「YN26」の日焼け果は、いずれの現地栽培園においても調査期間を通して発生し、特に曇天後の晴天・高温状況下で多く発生した。炭酸カルシウム剤（薬剤名：ホワイトコート）散布により品質を低下させずに日焼け果発生数を軽減できた。

### 【背景・ねらい】

極早生ウンシュウミカンである「YN26」は9月に収穫でき、県オリジナル品種のトップバッターとして栽培面積が増加しつつあるが、夏期に日焼け果が発生しやすく収穫量に影響するため、その対策が求められている。

そこで、本研究では現地栽培園（西牟婁・日高地域の計10園地）における日焼け果の発生状況を調査するとともに、その対策として遮光処理および炭酸カルシウム剤処理について検討を行った。

### 【成果の内容・特徴】

- 1) 2021年の調査では各調査園とも梅雨明け後の7月下旬から8月上旬にかけて日焼け果が発生した。その後8月中旬の曇天・長雨の期間は発生が少なかったものの、その後の晴天でさらに発生した（図1）。
- 2) 園地によりやや異なる場合はあるものの、樹冠の南側および東側で日焼け果が多い傾向であった。また、樹冠外側での発生が多かった（データ略）。
- 3) 遮光処理、炭酸カルシウム処理ともに無処理区と比較して日焼け果発生数が少なかった（図2）。日焼け果発生数は遮光区で最も少なかったが、糖度が低く推移した。炭酸カルシウム区では糖度の低下はみられなかった（データ略）。

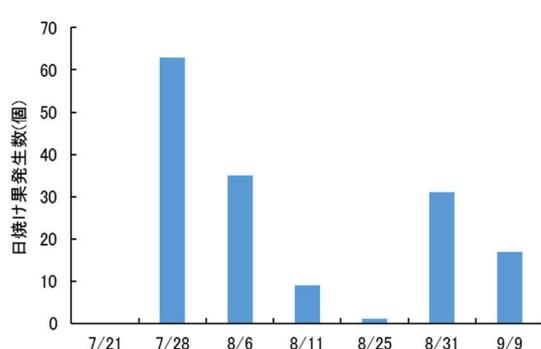


図1 現地調査園（日高川町 TA 園）における時期別の日焼け果発生数(2021)  
※調査日ごとに新規発生数を調査、  
数値は3樹合計

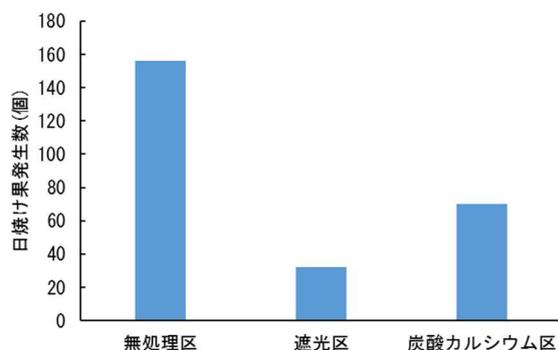


図2 各処理区における日焼け果発生数  
※遮光は2021年7月18日～9月1日  
炭酸カルシウムは7月5日に25倍で散布  
数値は各区3樹合計